平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1271900258		
法人名	株式会社　セブンワーカーズ		
事業所名	グループホーム天鼓		
所在地	千葉県匝瑳市飯倉台10-15		
自己評価作成日	平成27年11月1日	評価結果市町村受理日	平成28年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成27年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

10月には15回以上の受診と往診がある。両方ともフォローしながらの日々、加えてターミナルの人もいる中で入居者一人一人の生活状態を把握してゆく事の大切さを感じている日々。ご家族様との連携もいよいよ重要となってきています。重要化した入居者の思いを組みとり、よりよい生活が送れるよう精いっぱい頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域との積極的な関係作りに努めており、運営推進会議は地域の民生委員、自治会長、利用者家族、老人会長、近隣住民など多彩な参加者で行われている。災害対策については運営推進会議の議題として取り上げ、検討しており、防災備蓄品を準備し、繰り返しの訓練も実施している。また、運営推進会議は家族会も兼ねており、家族の参加が多く、意見も出やすくなっていると思われる。看取りの実績が多くあるが、最後の日々、家族がホームに泊まりこむこともあり、家族とホームが連携して利用者を支援していることが伺える。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝の申し送りでご利用者様主体という基本理念と行動ベーシックが出来ている。防災マニュアルも含め読み上げ理念を共有し、課題があるたび理念に添っているかと話合う。	全職員で考えた年間目標を掲げ、利用者主体の支援の実践に努めている。ホームの理念、行動規範を毎朝の申し送り時に唱和して、全職員に周知する取り組みをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会費を払っているので回覧板が回ってくる、地域のゴミステーションを利用しゴミステーションの掃除当番も回ってくる。年2～3回のゴミO運動にも4～5名づつ参加している。	自治会に加入し、利用者と共に地域の清掃活動に参加している。また、小学生の体験学習を受け入れ、体験終了後に礼状が届くなど、地域とは積極的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1度の運営推進会議の時にはGH活動の報告をしその席で必ず認知症の勉強会を行っている。今月は17回勉強会を開催（11/15）民生委員や市役所、駐在所の警察官、家族の方も一緒で分かりやすく行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「天鼓での様子」をご家族に報告している。ご家族より不満の意見は出てこないが、全員が発言するのでいろんな話が出て参考になる事を実行している。	運営推進会議には利用者家族、地域の民生委員、自治会長、近隣交番の警察官、老人会長、市職員、地域住民などの参加があり、災害時対策について話し合ったり認知症の勉強会を行うなど充実した内容である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所は運営推進会議に必ず参加してくれている。その中で、良くやっているむしろ参考になるよと言ってくれている。市の掲示板に機関誌を並べてもらっている。	市からは運営推進会議への出席があり、ホームからは毎月市の担当課を訪問してホームの状況を報告するなど、情報共有に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年県の身体拘束についての勉強会を行っている。学んだ事を社内で皆に報告をしている。日に何度か外に出たいと言うご利用者様が2人いらっしゃいましてその都度、付き添い一緒に歩いている。	身体拘束をしないことを基本としており、マニュアルも整備している。また、毎月のホームの全体会で研修を行い、職員間でも確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎年県の拘束防止の研修に社員誰かが参加。社員全体会で発表を行っている。毎年の標語作りで社員の中から「言葉の暴力致しません」との標語を作ったりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日に何度も外出したいご利用者様、いつでもスタッフが付添う。事業所内のスタッフと携帯で常に連絡をとり散歩している。毎月の研修会に良く話合いをしている。特に認知症専門の施設なのでどういう事に気をつけるか話合い、病気の時でも本人の気持ちに添って個別ケアをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	1つ1つの条項に懇切丁寧に説明、何かご不明な点はありませんかと項目ごとに問いかけている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は会長が特別要請もないので、必要な時に召集しますと家族の方に説明しておられました。今は認知症の勉強を続けるかどうかで話合った折に継続してほしいという意見が出て、ずっと続け今日に至っている。	運営推進会議は家族会を兼ねて開催しており、家族の参加が多く、意見も出やすい。また、利用者の意向は、日常の生活の中で、利用者一人ひとりの行動が生き生きする瞬間を見つけ出すように努めている。言葉としては発せない利用者に対しても行動から把握するように取り組んでいる。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年恒例になっている地域のお祭り参加。この暑さで今年は無理ではないかとの意見があって中止した。（職員はお祭りのビデオを流し、ご利用者様と盛り上がって過ごしていた。）フラワーボックスには、野菜を蒔こうと言って続けている。	毎月開催している全大会で職員の意見を聞くとともに、連絡ノートに書かれた気づきや提案についても。管理者が確認して反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育てや親の介護中でも仕事を継続しやすいよういろいろの時間帯が設けられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修への応援制度がある。毎月の社内研修では手当てをつける。半年に一度表彰制度がある。介護福祉士の国家試験を受験する為実務者研修の受講を社員価格とし、受講日の半分を有休とした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の多職種連絡会や施設ケアマネ会に参加、その後に社内研修会にて報告している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他の入居者様に馴染めるよう回想法をもじって自己紹介や好きな物の発表で共感したり、話の広がりを作り、発言しやすい関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの事を伺いこれからどうすれば満足した人生をおくれるかを話あう。ご家族の気持ちを大切にする。最近の例として病気の時りんごを持ってきてくれたのですりおろし、食べてもらう等家族の思いをくみとって行動している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	こちらもわからないし、本人も納得しているかどうかわからない訳だから、今しようとしている事にまず寄り添い、本人を理解し、色々な事に気づいてあげようとする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	好きの物なに？と言う話合いをしたら、すぐに反映させる。今日何を食べたいかを一緒に考える事は大切で、みんなと食事作りをする。ご自分の洗濯物を干したりたたんだりして、暮らしの仲間作りをする。スタッフも介入しながら和やかな一時を過ごす。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とスタッフが行事の弁当作りをした。敬老会にはご家族様も一緒に参加し、食事会を共にした。身体や生活のことで、質問し共有しあったら、始めてこんなに親の所に通うようになった、とおっしゃった家族がいた。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や今まで付き合ってきた友人などの訪問はひっきりなくある。又本人やご家族が希望する時はいつでも外出している。習い事なども自由に参加している。	友人や知人の訪問が多数あり、ホームでは歓迎して馴染みの関係継続に努めている。また、家族の同行で習字を習いに行く利用者もおり、利用者が大切にしている事が続けられるように支援していることが伺える。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方、お話が得意ではない方、会話がスムーズに行くようスタッフが傍らに付き添う。今日はレクに参加したくないという利用者様は別のところで、スタッフと一緒にお話しながら過ごしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転院か、死亡か、元気になって家に帰るかですが、死亡時には葬儀に参加。新盆の御見舞いにもうかがっている。病院への御見舞いにも伺っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	中々本人がこうしたいと言って入居してくる例がありません。家族の意向が多いですが、生活が始まって本人や家族、GHが思いを同じにして安心して暮らしてゆくようになった時、本人の気持ちに添って介助している。	日々の生活の中で利用者が発するサインや表情をよく見て、意向の把握に努め、職員間で情報を共有して支援にあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を見てご本人のお話を聞き、お料理の得意な方、お花の手入れ好きな方などを見極めている。本人流という暮らし方について把握し、理解し、協力して生活をつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	GHの行事があっても本人の好まない時は参加せず自由にしている。病気や前夜不眠だったりすることもあるので、状況に合わせている。毎朝バイタルチエックを行ってスタッフ共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフは本人のADLや体調を見て、本人の気持ちを伺って計画を作成する。体調変化のあった時は、すぐスタッフ集まり介護計画を話し合う。日々の記録とモニタリングにより方向づけもする。ご家族にはその都度説明し了解してもらっている。	本人や家族の意向を把握し、定期的なカンファレンスで一人ひとりの利用者についての支援内容を検討して介護計画を作成している。また、状態に変化があれば、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌に個々の注意事項や達成目標を記載、毎日モニタリングを行う。常に記録とモニタリングで速やかに対応が出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調に変化あるかな、と思うと即家族と連絡をとり職員が受診に連れていく。臥床時間が長く皆様と行動が異なる利用者様個々のペースに合わせ入浴や食事介助。日に何度も外出をする利用者様、それぞれの対応をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加している。地域で民謡、琴、踊り、バンド、マジックショー等をやっている方の慰問を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医との連携があり、月1回往診してくれている。必要時検査や指示をもらっている。電話での相談も気軽にうけてくれたり、判断してくれて時に駆けつけてくれる。	ホームの協力医だけではなく、利用者一人ひとりの希望で主治医を決めている。医師には随時連絡を取り、適切な指示が受けられるような体制にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内看護師にはいつでも相談や指導を仰いでいる。毎朝の申し送りでの情報交換や職員用ノートによる伝達を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医の連携により情報交換や医療相談が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い、医師や家族とGHとで話合って、医師から終末期の状態の説明を聞く。家族もどんなかかわりが出来るかを話してくれるので、一緒に介護する。家族も最後のＩ週間位を泊り込みしてくれる。親の最期の時間を大切に過ごせるようスタッフは支援している。	ホームとして看取りを行っており、多くの実績がある。家族にも協力を依頼し、ホームと家族が連携して利用者を支援しており、最後は家族もホームに泊まって、一緒に過ごすことが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1会の定例研修会にて応急手当や初期対応の訓練を行っている。日常的には看護師が一人一人の対応の仕方を常時教えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練、火災訓練には消防署が来てくれてスタッフ全員が参加している。避難方法や初期動作を身に付けている。隣接するご近所の方から支援も頂いている。	年2回の避難訓練を実施している。今年度は夜間想定の訓練を実施し、竜巻の時の対応方法も学んだ。また、近隣住民とは運営推進会議でも災害時の対策について話し合っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ぞんざいな言葉を使ったりしない。 礼節と尊厳の心を持って接している。排泄等そっと声掛けして誘導している。	「人前で恥ずかしい思いをさせない」、「そっと声かけし排泄介助を行う」などプライバシー保護ポリシーを毎日の朝礼時に唱和し実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の話を良く聞き対応出来る時はすぐ行動する。○○やりたいと言う時や○○食べたいなあ、はほとんど実行するようにしている。チラシ広告なども心が動くものなので話を楽しんで自分の思いも表出してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が、今、何を話したいのかを考え個別ケアを大切にしている。わだかまりがあって納得されない時はとことん付き合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装が出来るようアドバイスをしている。隣の奥様が美容師なので、来てくれて皆と話をしながらカットをしてくれる。その他家族が連れて行ってくれる場合、美容院が迎えに来てくれる等がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、皮むき、盛り付けなど楽しく会話しながら行っている。誕生日のケーキ、お好み焼き、焼きそば、いなり寿しなどいつも皆で作っている。	稲荷寿司などをみんなで一緒に作ったり、利用者の希望を聞いて献立に入れることもある。またベランダや戸外に出て食べるなど、食事が楽しくなるような支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	誤嚥の心配な方はトロミをつけ、コレステロールの高い方などは量や質を考え、その人に合った食事を用意している。肉を食べない人は別メニューを作っている。水分が不足している場合はあらゆる形で飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に声掛けして1日3回毎食後口腔ケア介助している。口腔内殺菌の為さましたお茶を作っておき、うがいもして頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便のメカニズムを職員は個別に理解している。トイレに移動し排尿姿勢を整える事の重要性を理解し定時のトイレ誘導（移乗）を行っている。1人1人の排泄パターンを理解出来ている為オムツの使用量も減らすことが出来ている。	日々の記録で、一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員間で共有して自立に向けて支援しており、おむつに頼らないケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く取るよう提供し食事にはフルーツヨーグルト、牛乳、その他ヤサイジュースなどを提供し、毎日の歩行や腹部マッサージをしている。便秘2日を越えると座薬など用いて、日中に出すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の希望により外出から帰った際や身体を動かした後気持ちよく入浴が出来るよう声かけをしている。応じてくれない人は、何度も声かけし失禁等ひどく汚れた時は、即お風呂場にお連れしている。	入浴、足浴や布団干しは、シールで実施の有無を記録している。隔日に入浴する利用者が多いが、毎日入浴を希望する人にも対応している。柚子湯、菖蒲湯など季節のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干しやシーツ交換など常に清潔を心がけている。昼寝をする人には、いつでもできるようにしておく。室温調整をしながら掛け物を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師と担当者がくすりの効能について確認している。薬担当を決め管理者が確認し、飲む前に再度確認しながら飲んでもらっている。服薬させた人が印を押す。薬が変わった時は体調を観察し医師に連絡をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物干し、お盆拭きなど役割を持ってもらっている。洋裁や編み物など得意とする生活歴があっても実際には集中力も欠け出来にくい。一般的だが、出来る家事の手伝いをしてもらう。さまざまなレクや外出などで気分転換をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	皆さん戸外が好きなので、散歩等の外出支援は良く行われている。プランターに花を植えたいという希望から花苗を購入外出したり外気を感じて「どっか出かけたいね。」の言葉に車をだして小さな買物に良く出かける。	天気がよければ戸外に出るようにして、外気に触れる機会を多く作る様にしている。また、コンビニエンスストアや生産者直売所での買い物など、車でもよく出かけている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒にコンビニや生産者直売所に出かけ自分で買物が出来るように、サイフをお渡しする。買いたい人は買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自宅へ電話をしたいという希望で自宅にかけてさしあげる事もある。自分でかけられる人は携帯を持っている。（2名）　手紙も書ける人には機会を作り送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わって頂くような時期の花を飾ったり、行事計画（敬老会等）室内装飾や思い出の写真を貼り皆で思い思いの会話を楽しんでいる。机の上の花は食べられてしまうので、今は置いていないが、ベランダには置いている。玄関やカウンターには置いている。	手芸品、行事の写真や利用者が書いた習字などを飾られたリビングは、明るく室温や湿度も適切である。また、横になれるスペースもあり、利用者が思い思いの場所で自由に過ごせるように支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あちこちに椅子やソファーを配置して時折使用している。皆で楽しむ時間はホールで唄やゲームをし、ゆっくり習字をしたい時は自室で楽しまれている。へやでハーモニを吹いている人もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が写真を持参したりスタッフが写真を飾ってある人もいる。使い慣れた物を持ってきている人は6名いる。ふだん居室よりホールにいることが多い。	家族などの写真を飾っている利用者が多い。リビングで過ごす人が多いが、自分の部屋に帰った時に落ち着いて居心地よく過ごせるような支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の出来ること1人1人理解しており得意なことを生かすように心掛けている。花の水かえ、折り紙でくす玉作り、色塗り、出来上がりを自分の希望で居室に飾ったり、通路に飾り他入居者とみて楽しまれている。		